

皇學館高等学校創立60周年 皇學館中学校創立45周年 記念行事を挙行



皇學館高等学校創立60周年・皇學館中学校創立45周年 記念式典



厳かに執り行われた祭典



式辞を述べる芝崎学校長

式典の後には記念講演を開催。皇學館高等学校卒業生で現

在の皇學館高等学校校長が、卒業生の方々に祝辞を述べた。

11月2日午前11時、シンフォニアホールにて記念式典を挙行。約1200名が出席する中、芝崎俊也校長は式辞で両校を祝った。祭典(斎主・岡部博英)には皇學館高等学校の生徒9名が祭員として加わり、緊張しながらも無事に務めを

厳かに執り行われた祭典・式典 同窓生の協賛で南門を改修

11月2日、皇學館高等学校創立60周年・皇學館中学校創立45周年記念行事が執り行われた。式典会場となったシンフォニアホールに伊勢にはご来賓の方々のみならず、本校生、教職員など約1200名が参列。建学の精神のもと発展してきた校史に思いを馳せ、佳節を迎えた喜びを胸に刻んだ。



学校・同窓会関係者らが参列した南門テープカット式

また、この日、周年記念行事の一環として南門(旧高校正門)の改修を祝うテープカット式が行われた。利根康教寒川神社宮司と皇學館高等学

生徒たちは三重県で地域医療、災害医療のパイオニアとして活動されてきた森本医師の話に熱心に耳を傾けていた。



森本医師の話に聞き入る生徒たち

村田怜音さん(教育4)が 皇學館史上初のプロ野球選手に

皇學館史にその名を刻む快挙だ。村田怜音さん(教育4)が10月26日に行われたプロ野球ドラフト会議で埼玉西武ライオンズから6位指名を受けた。身長196センチ、体重110キロの恵まれた体格から生み出される長打力が魅力。指名後の記者会見では「今日を新たにしたい」と決意を新たにした。



貴重な資料が展示された企画展

また、10月5日には周年記念として中高合同体育大会が三重交通Gスポーツ杜伊勢で盛大に開催された。応援合戦では高校生の呼びかけに応え中学生が一緒に盛り上げた。リレーはともにも速く迫った。リレーはともにも速く迫った。リレーはともにも速く迫った。



野球部の仲間と喜ぶ村田さん

村田怜音さんプロ野球ドラフト指名特集を2面に掲載

周年記念特別展・中高合同体育大会を開催

10月30日から11月4日まで周年を記念した特別展「皇學館高等学校・中学校―過去から未来へ―」が高等学校で開かれた。同展は同校の記念誌を編集するチーム(田浦雅徳副校長・高校生メンバー)が企画し、本学館史担当の国史学科・長谷川怜准教授と大学生有志、佐川記念神道博物館学芸員・小林郁助教が協力。展示室となった教室には創立時の書類や修学旅行の案内、中学校の募集ポスター、昭和期の制服など両校の歴史を振り返る興味深い資料が並べられた。

また、10月5日には周年記念として中高合同体育大会が三重交通Gスポーツ杜伊勢で盛大に開催された。応援合戦では高校生の呼びかけに応え中学生が一緒に盛り上げた。リレーはともにも速く迫った。リレーはともにも速く迫った。リレーはともにも速く迫った。



どの種目も熱戦が繰り広げられた

皇學館 学園報

第98号 令和5年12月



注目記事

- 2面 村田怜音さんプロ野球ドラフト指名特集
- 3面 カルチャー&スポーツ 出雲駅伝18位、全日本大学駅伝に3名が出場
- 4面 令和5年度 就職内定状況(中間報告)
- 5面 地域連携 皇學館オリジナルばんじゅうがふるさと納税返礼品に
- 6面 中高トピックス 車いす利用者の神宮参拝をサポート 皇學館高等学校
- 7面 学園祭特集 歓声と賑わいが戻った学園祭
- 8面 アクティブスチューデント 女子軟式野球部3名が女子軟式野球ジャパンカップに選抜出場 第100回箱根駅伝予選会に駅伝競走部が挑戦 ほか

発行・編集 学校法人皇學館 企画部 TEL 0596-22-6496・8600

大学 大学院 文学部 教育学部 専攻科 現代日本社会学部 〒516-8555 三重県伊勢市神田久志本町1704 TEL 0596-22-0201(代) FAX 0596-27-1704

高等学校・中学校 三重県伊勢市楠部町138 [高校] 〒516-8577 TEL 0596-22-0205(代) [中学] 〒516-8588 TEL 0596-23-1398(代)



このほど、皇學館高等学校創立60周年・皇學館中学校創立45周年記念式典が挙行された▼皇學館高等学校の創立は第一次ベビーブームの子どもたちが高校に進学する時期に当たり、当時の三重県知事の要請をうける形で設立された。神宮皇學館普通科の流れを汲む学校と位置付けるならば、親和性は高かったに違いない▼開設当初は自前の校舎が完成しておらず、伊勢市立有緒小学校に間借りをしてのスタートだったという▼以来、六十年の時を経て、校舎や設備も拡充され、ICT活用では先進的な取り組みが行われている▼記念講演では、卒業生である紀宝町立相野谷診療所所長の森本真之助医師が聞く者を魅了した▼病を診るのではなく、人を診る地域医療に取組み、南海トラフ地震に備えた災害対策をめぐす話は、現役高校生・中学生にも大きな感銘を与えたに違いない▼今後とも特色のある校風である直ぐ正しくという倫理的な規範を内に秘めて活躍する卒業生が陸続と現れてくるだろう▼人生にとって六十年は還暦に当たり節目を祝う。学校史においてもまた百年に向けた里程の一つである。

「日本のホームラン」 バッターに

皇學館史上初のNPB選手となった村田怜音選手。運命のドラフト会議から契約までの慌ただししい一カ月を追った。

背番号
99



村田 怜音

10月26日19時2分。ドラフト会議の生中継を見守っていた村田選手は埼玉西武ライオンズの第6巡指名として名前が呼ばれた瞬間、雄たけびを上げ、両手でガッツポーズ。森本進監督は万歳をして椅子から立ち上がり、野球部員は飛び跳ねて喜んだ。本学会議室はかつてない興奮と歓喜に沸き返った。

指名後の記者会見で1年目に残したい成績について「まずは安達俊也スカウトが指名挨拶のため来学した。安達スカウトは村田選手に注目した試合の一つに明治神宮大会代表決定戦を兼ねた第18回東海地区・北陸・愛知三連盟王座決定戦での対金沢学院大戦を挙げ、「ホームランを見たときに、これはもう間違いないと。こういうバッティングができるバッターはホームラン王になれるぞ。うちのチームカラーにも合っている」と話した。その上で、「彼の身体能力や飛距離はほかの人にはないもの。伸びしろがあり、将来が楽しみ。夢を見させてもらえそう」と顔を



ドラフト会議後の記者会見(左から新田部長、村田選手、森本監督)

ケがなく、1年間をフルで戦い抜きたい」と語った村田選手。3年後の選手像を問われると「中軸を張れる、苦しい場面で長打を打てる選手」と話し、加えて侍ジャパンのユニフォームを着るといふ、大学でかなえられなかった夢をプロの世界でかなえたいと語った。タイトル以外では「結果を出し、応援もされる愛される選手になりたい」と話した。

11月1日、埼玉西武ライオンズ球団本部より前田俊郎チーフ、安達俊也スカウトが指名挨拶のため来学した。安達スカウトは村田選手に注目した試合の一つに明治神宮大会代表決定戦を兼ねた第18回東海地区・北陸・愛知三連盟王座決定戦での対金沢学院大戦を挙げ、「ホームランを見たときに、これはもう間違いないと。こういうバッティングができるバッターはホームラン王になれるぞ。うちのチームカラーにも合っている」と話した。その上で、「彼の身体能力や飛距離はほかの人にはないもの。伸びしろがあり、将来が楽しみ。夢を見させてもらえそう」と顔を



左から安達さん、村田選手、前田さん

をほころばせた。村田選手は「あのセンターに打ったホームランは自分の中でもいちばんよかったバッティング。それを評価していただいたことがうれしい」と語った。そして、「30本といわず、40本、50本と打ち、日本一のホームランバッターになれるようやっていたい」と意気込みを見せた。

11月6日、松阪市市長を
表敬訪問

村田選手は11月6日に松阪市の竹上真人市長、同月8日には伊勢市の鈴木健一市長を表敬訪問した。鈴木市長に座右の銘を問われた村田選手は「積土成山」と回答。「高校時代、自主トレーニングを毎日欠かさず行うようになってから公式戦でホームランを打つなど成果が出始めた。一日一日努力を積み重ねていけば、最後に花が咲く」と自らの体験を振り返った。子どもたちへのメッセージを求められると、「諦めなかつたら夢がかなうと、自分が証明できた。自らを信じてやり続けてほしい」と力強く



「市民はもちろん、全国の皇學館の人が歓声を上げた日になったのでは」と伊勢市長(左)



松阪市長(左)は「地元アスリートが活躍することで市民も元気になる勇気や感動をもらえる」と話す

語った。鈴木市長からは「これまでとは違うステージ。身体に気を付けて頑張ってください。応援しています」と激励を受けた。

11月15日、鳥羽市内のホテルで入団交渉が行われ、内諾会見が開かれた。背番号は「99」に内定。2014年にホームラン王を獲得したメヒア選手が背負った番号だ。安達スカウトは「大きい番号だが、大きな背中についていく。スケールの大きさもアピールできる」と期待の高さをうかがわせた。

11月15日、鳥羽市内のホテルで入団交渉が行われ、内諾会見が開かれた。背番号は「99」に内定。2014年にホームラン王を獲得したメヒア選手が背負った番号だ。安達スカウトは「大きい番号だが、大きな背中についていく。スケールの大きさもアピールできる」と期待の高さをうかがわせた。

同月26日には正式契約。球団のドラフト新入団選手発表会でお披露目となった村田選手は見守るファンに「目標はホームラン王」と改めて公言し、「圧倒的な長打力と打球の速さをプロの世界でアピールできるように、坊主のまま頑張っていきます。ニックネームは『レオのガリバー』でお願いします」と挨拶した。高校卒業時、本学以外にも多くの大学から声を掛けられたが、「強豪より地方の大学で1年生から活躍した方がプロから注目される」と考え、本学に進学した村田選手。教育学科に所属し、将来は「野球を教える指導者になりたい」と高校の体育教員免許を取得予定だ。大学で得たいちばんの宝物に同期の存在を挙げ、「ゆくゆくは一緒に舞台でやれたらいい」と社会人野球チームや独立リーグに行く仲間たちへの思いを語った。『伊勢のガリバー』から『レオのガリバー』へ。逆算思考で着実に目標を達成してきた村田選手の活躍に注目だ。

Culture & Sports
カルチャー&スポーツ

山村選手、若谷選手が全国9位 団体戦は慶大に快勝も山梨学院大に惜敗

全日本学生柔道体重別選手権大会・団体優勝大会

日本武道館にて9月30日、10月1日の両日、2023年度全日本学生柔道体重別選手権大会が開催され、本学柔道部から澤田選手、山村選手、本木選手、若谷選手、金山選手、瀧川選手、南選手、鳥選手の計8名が出場した。

初日の30日、66kg級の澤田選手は1回戦で今大会覇者となった選手と対戦し、無念の敗退。73kg級の山村選手は3回戦に進出するも、接戦の末延長戦で敗れ、9位(ベスト16)と涙



全国大会常連校となった本学柔道部(上)。3回戦に進んだ若谷選手(左下)と山村選手(右下)

も一歩及ばず初戦で姿を消した。10月21日、22日にはベニコム尼崎総合体育館で全日本学生柔道体重別団体優勝大会が行われた。1回戦は慶應義塾大学を相手に4-1で快勝。続く2回戦は昨年同大会で負けを喫した山梨学院大学と対戦した。先鋒戦は引き分け、次鋒戦は負け、五将、中堅、三将、副将戦は引き分けとなり、逆転勝ちの望みをかけた大将戦。果敢に挑むも技ありを取られ、0-2で3回戦に進むことはかなわなかった。

全日本学生柔道体重別選手権大会・団体優勝大会 出場選手

団(先鋒)	清水 佑 晟(現日4)	個
団(次鋒)	島 健 輔(現日4)	個
団(五将)	澤田 大 輝(現日4)	個
団(中堅)	山 村 隆 斗(教育4)	個
団(三将)	若 谷 怜(教育2)	個
団(副将)	瀧 川 力(現日4)	個
団(大将)	南 大 介(現日4)	個
	本 木 靖 剛(教育4)	個
	金 山 剛 史(教育3)	個
	南 大 志(現日2)	個

主将として柔道部を率い、今大会大将を務めた南選手は「全国の壁は厚かった」としながらも、「ここまで頑張ってきたのは大学に通わせてくれた両親や最後まで応援をしてくれた両親や最後まで応援をしてくれた皆さんのおかげ」と感謝の気持ちを吐露した。

佐藤武尊部長は「惜しい展開が何度もあり、通常なら引き分けに持ち込める場面でも私の指示で攻めた結果、返された。選手たちは一生懸命やってくれた。強豪相手に戦い切れたことは誇りであり、次につながる成果。とはいえ決して満足はしていない。どうすれば皇學館大学に貢献できるのか、自分たちにできることを着実にやっていく」と決意を述べた。

10月21日、22日にはベニコム尼崎総合体育館で全日本学生柔道体重別団体優勝大会が行われた。1回戦は慶應義塾大学を相手に4-1で快勝。続く2回戦は昨年同大会で負けを喫した山梨学院大学と対戦した。先鋒戦は引き分け、次鋒戦は負け、五将、中堅、三将、副将戦は引き分けとなり、逆転勝ちの望みをかけた大将戦。果敢に挑むも技ありを取られ、0-2で3回戦に進むことはかなわなかった。

出雲駅伝18位、 全日本大学駅伝に3選手が出場

昨年に続き有観客開催となった第35回出雲駅伝が10月9日に行われ、本学駅伝競走部は18位でゴールした。全日本大学駅伝は東海学連選抜メンバーに選ばれた3選手が応援の声響く中、伊勢路を駆け抜けた。

松野選手が出雲駅伝で意地の区間10位

10月9日、第35回出雲駅伝が開催され、本学駅伝競走部は5年連続5回目となる出場を果たした。

区間	出場選手	区間記録(順位)	速達順位
1区	新 間 圭(現日1)	25:38(20)	20
2区	山 田 奏 楽(現日3)	18:03(16)	19
3区	藤 川 創(コミ3)	27:31(20)	19
4区	田 中 靖 晃(現日2)	19:39(18)	20
5区	浦 瀬 晃 太 朗(現日3)	19:51(15)	19
6区	松 野 颯 斗(現日4)	31:25(10)	18

全日本大学駅伝は3名が東海学連選抜で出場

11月5日に実施された秩父宮賜杯第55回全日本大学駅伝はチームでの出場はかなわなかったが、6区に曾越大成選手(教育3)、7区に岩島昇汰選手(国史3)、最終8区に畠山大輔選手(国史3)の3名が東海学連選抜の一員として出場した。スタート時点から気温が高くなり、選手たちは厳しい環境となった同大会。東海学連選抜は第4・6・7中継所で無念の繰り上げスタートとなった。本学正門前では柔道部・野球部を中心に多くの声援をいただき、次回、チームとしての出場をめざす全員にとって大きな励みとなった。

東海学生駅伝は惜しくも3位

12月10日には来年度の出雲駅伝出場をかけた東海学生駅伝が愛知県知多市で開催された。本学Aチームは3区で田中靖晃選手が区間1位になるなど奮闘したが、3時間19分12で3位となり、大会7連覇、出雲駅伝連続出場とはならなかった。寺田監督のもと気持ち新たに練習に打ち込む部員たち。復活に期待が高まる。

御 礼

平素より本法人の教育・研究活動に対し、格別のご高配を賜り、謹んで御礼申し上げます。またこの度は、本学強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部)の全国大会出場にあたり、多くの皆様から物心両面にわたるご支援を賜りましたこと、重ねて御礼申し上げます。今回の経験を糧にこれからも一層の精進を重ねて参ります。今後も変わらぬご指導とご支援を賜りますようお願い申し上げます。

学校法人皇學館 理事長 小 串 和 夫

強化指定クラブ(駅伝競走部・柔道部) 全国大会出場協賛金納入状況報告 R5.12.1現在

区 分	件数	協賛金(円)
宗 教 界	9	970,000
企 業	22	1,570,000
館 友	37	353,000
尊の会保護者	1	77,000
一 般	3	55,000
本 法 人 関 係	13	137,000
合 計	85	3,162,000



学生教職員合同の避難訓練を 4年ぶりに実施



10月12日のIV講時終了後、学生・教職員を対象とした防災訓練が4年ぶりに行われた。緊急地震速報を受け、学生は教員や大学自衛消防隊の誘導で第一グラウンドに避難。続いて水消火器訓練が実施され、同自衛消防隊消火班による水消火器使用の説明の後、代表の学生が実際に水消火器を体験した。その後、伊勢市危機管理課防災マネージャーの阿部雅寿さんによる講話「災害に対する日頃からの備え」を聞いた。阿部さんはその中で「東海地方を襲う南海トラフ地震は100~150年の周期で必ず発生している。まだ起こらないではなく、今日起こるかもしれないという意識を常に持つことが重要」と述べた。

4年ぶりに山室山参拝・ 参拝見学を実施



奥墓での講話を静かに聴き入る学生たち

コロナ禍により現地へのお参りを見合わせていた山室山参拝及び参拝見学が11月1日、4年ぶりに再開され、学部・専攻科の学生約1300名と教職員が各行き先へ赴いた。山室山では本居宣長の奥墓を参拝。墓前にて入選歌が献詠され、朗々とした声が静寂の中に響き渡った。

年 次	学 部	参拝・見学先
1 年	文	山室山参拝
2 年	文	瀧原宮
	教・現	内宮・外宮
3 年	文	伊雑宮
4 年	文	結城神社
専 攻 科		山室山参拝

献 詠 歌 (抜粋)

初秋の山室山の奥都城に
赤蜻蛉群なして飛びをり 理事長 小串和夫
清秋の空に響かす拍手を
落ち葉散りゆく奥つ城の前 国文4 森 絵美里



最後まで懸命に走った選手たち

箱根駅伝 第100回大会予選会の模様は8面をご参照ください

令和5年度 内定状況

482名が内定

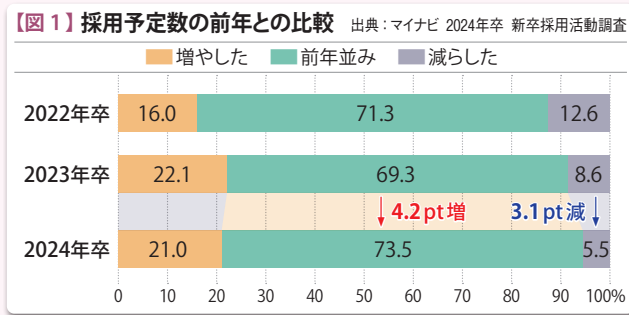
内定率73.6%

旺盛な採用意欲の中、 好調に推移

12月1日時点の就職内定率は73.6%（内定者数482名/就職希望者655名）で、過去最高の就職率となった昨年度生の同時期とほぼ同数となった。

長いコロナ禍を経て日常生活の正常化が進み、新卒採用においてはオンライン活用の継続とともに対面型への回帰や併用型も定着した。24年卒生は大学入学直後からコロナ禍の制限下での学生生活を余儀なくされ、自己PR作り等に苦心したが、その懸念をよそに内定率は高水準で進捗し、「売り手市場」が鮮明化したのが特徴のひとつといえる。

企業の採用予定数は「前年並み」が最多で73.5%（対前年比4.2ポイント増）、「増やした」が21.0%、「減らした」が5.5%（対前年比3.1ポイント減）と



	神社	企業・団体	医療・福祉	公務員	教員(小中高)	教員(幼保育士)	計
R5.12.1	52	277	23	33	65	32	482
昨年同時期	43	276	26	41	64	46	496

企業・団体 学生の「売り手市場」続く

24年卒はコロナ禍前よりも採用予定数の確保が困難とする企業の増加傾向が見られるなど、新卒採用の難易度の高まりと学生側の売り手市場化が見られる。12月1日現在の企業・団体内定者数は277名。24年卒の内定率は前年同時期と同じ水準で推移、複数内定保有者も増加した。今年も金融・保険関係17名、農業協同組合3名が内定を得ている。

就職担当には求人依頼が絶えず届いており、最後まで一人ひとりに寄り添った支援を継続しているため、未内定の学生も諦めずに活動してほしい。

公務員 早期化が定着、一部多様化も

今年度も行政職を中心に、試験の早期化や多様化など目まぐるしく変化している。学生の「安定、地元」志向は依然高く、倍率も高水準傾向にある。現時点の公務員合格者は延べ53名で、合格先は三重県、神奈川県、いなべ市、桑名市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、鳥羽市、高山市、明和町、大樹町、南木曾町、三重県警、警視庁、愛知県警、岐阜県警、京都府警、大阪府警、兵庫県警、佐賀県警、東京消防庁、自衛官となっている。

今年度も行政職を中心に、試験の早期化や多様化など目まぐるしく変化している。学生の「安定、地元」志向は依然高く、倍率も高水準傾向にある。現時点の公務員合格者は延べ53名で、合格先は三重県、神奈川県、いなべ市、桑名市、鈴鹿市、津市、松阪市、伊勢市、志摩市、鳥羽市、高山市、明和町、大樹町、南木曾町、三重県警、警視庁、愛知県警、岐阜県警、京都府警、大阪府警、兵庫県警、佐賀県警、東京消防庁、自衛官となっている。

教職関係 12年連続トップ(既卒含む) 三重県は126名が合格

令和5年度教員採用試験(三重県公立学校)で本学は既卒を含め126名が合格を果たした。小学校では95名が合格し、三重県全体の合格者に占める本学の割合は38.3%と12年連続三重県トップ。三重県以外では32名が現役合格している。公立幼稚園は7市町(四日市市・津市・松阪市・伊勢市・大台町・明和町・玉城町)で9名が合格した。教職支援担当では4名の教職アドバイザーが中心となって1年生から個人面談および論文指導を行い、早期から意識を高めるよう対策を講じている。試験直前期には、学部教員による実技特訓(ピアノ、器械運動、リスニング)を実施。教職希望者はこれらの制度を早期から積極的に活用し、入念な準備をして試験に臨んでほしい。

神社関係 採用内定率は好調

12月1日現在の今年の求人状況は昨年同時期に比べ15社51名増の177社318名の求人を出している。神社奉職希望者に対する採用内定率は97.0%となっている。内訳は学部生57名・専攻科生10名の67名(自家奉職者含む。昨年同時期59名)。神職養成担当では引き続き、未内定者の個別面談や面接指導を行い、神社関係への奉職希望者が全員採用内定できるよう努めていく。

令和5年度 神社関係者懇談会・協議員会を4年ぶりに開催

「令和5年度 神社関係者懇談会」及び「協議員会」が9月17日に「鳥羽国際ホテル」において4年ぶりの合同開催で、全国より約160名の皆様にご出席いただいた。



開宴に先立ち小串和夫理事長が神社界より格別のご支援を賜っていること、本法人へのご理解・ご協力に対し謝辞を述べた。続いて河野訓学長が研究・教育に関する様々な取り組みが着実に成果を上げていることを報告した。その後、ご来賓を代表して鷹司尚武神社本庁総務より本学に対する期待のお言葉を賜った。懇談会では久瀬朝尊神宮大司より乾杯のご発声があり、終始和やかな雰囲気の中、小野貴嗣神社本庁常務理事のご挨拶にてお開きとなった。

令和5年度 保護者対象 就職講演会・説明会を開催

10月1日、萼の会(保護者会)主催の「保護者対象就職講演会・説明会」を事前予約制で開催した。53名のご出席をいただき、オンデマンドでの視聴を希望された45名に収録動画を後日配信した。「コロナ禍の就活事情と保護者のサポート」との題目で開かれた講演会では株式会社マイナビのマイナビ副編集長・田上潤平氏が最新の就活環境や企業と学生の動きを地域性も加味して解説され、新卒に求められること、保護者としての支援の在り方を分かりやすく説明していただいた。

サポートのポイント

1. 情報収集に広いアンテナを持たせる
2. 早めの準備を促し、焦りを減らす
3. 工夫する意識を大切にしよう
4. 進路に関して早めにコミュニケーションする
5. 就職支援の3部署の積極活用を促す

保護者の主な感想

- 就職活動の現状やZ世代の特徴など、たくさん参考になりました。また、この様な説明会、講演会がありましたら参加させていただきたいです。
- 現在の就職活動の様子が分かり良かったです。自分の感覚でアドバイスしないようにしたいと思いました。
- 専属のアドバイザーさんがいらっしゃることで、とても心強く安心しております。子どもにも積極的に相談へ行こう話したいと思います。

内定者ボイス 一般企業編

①大学で得た学び ②アピールポイント、成功の秘訣 ③後輩へのアドバイス



三田 夏菜(国文) [内定先]中広 付いた。③人見知りだが、人生の分岐点と思い説明会で積極的に質問するなど名前を覚えてもらえるよう努力した。インターシップは早めに参加をオンラインでもいいから説明会に参加しよう。

①国文学科で文学や古紙に慣れ親しんできたことで、「紙」を扱う仕事にその経験が生かされると感じた。国語や書道の教職課程の履修も選択肢を広げる要因となった。②演劇部での活動をはじめ大学で多くの経験を積んだため、初めて経験する場面にも臆せず足を踏み出すことができた。③何をしたいかわからないときほど就職担当を利用するべき。客観的な視点から見てもらおうと上手にいくことがある。一人で絶対成功しない。



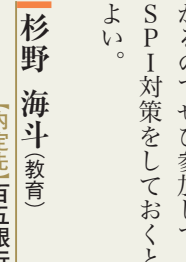
田端 希望(国文) [内定先]赤福 ①ゼミで自分の意見を英語で発表する機会が多くあり、英語力の基礎づくりにつながった。FPやMOS検定などの資格取得に挑戦した。TOEICは英語学習アドバイザーに相談したことで成績が伸びた。②英語で外国人に接客できる点をアピールした。ほとんどの面接で英検をはじめ取得した資格についての質問を受けた。③さまざまな業種のインターシップに参加して自分の適性を絞っていった。知らなかった企業も多く、視野が広がるのでぜひ参加して。SPI対策をしておくことよい。



森 知帆里(現目) [内定先]美和ロック ①知識が増えた。CLL活動やSBPに参加しやすいことも現日の魅力。幅広い年齢層の方々と接する中で見識が広がった。②高校時にプログラミンの4大会で優勝した。このことを企業の方が知っており、情報システムの話ができた。③就職担当に行くことで効率的に活動できる。プロがいるのに利用しない手はない。インターシップは会社での雰囲気を実感できるのだからなるべく多く参加しよう。



橋川 和直(国史) [内定先]静岡銀行 ①出来事について自ら調べ、深く掘り下げていく。国史学科の学修方法は仕事に生かせる。駅伝競走部に所属していたため、全国レベルで戦う先輩たちを間近で見られ、勉強になった。②中学から続く陸上競技活動。長距離は自分との闘いでもあるため、諦めない力が身に



杉野 海斗(教育) [内定先]百五銀行 ①教育実習がいい経験になった。小中高の教職と司書教諭の課程を履修し、社会人サッカーやボラン

①出来事について自ら調べ、深く掘り下げていく。国史学科の学修方法は仕事に生かせる。駅伝競走部に所属していたため、全国レベルで戦う先輩たちを間近で見られ、勉強になった。②中学から続く陸上競技活動。長距離は自分との闘いでもあるため、諦めない力が身に

Regional Collaboration 地域連携

皇學館DAY初の試み MieMuで「学び体験プログラム & 進学相談会」

9月18日、中高大合同の皇學館DAYを開催した。今年初めての試みとして三重県総合博物館MieMuにて「学び体験プログラム&進学相談会」を実施。大学の生物学ゼミが行ったプログラム「昆虫の体の中にあるハチって知ってる？」では子どもたちが身を乗り出して幼虫に寄生するハチを観察していた。ほか、「葉脈しおりを作ろう」「算数・数学で遊ぼう」「ペットボトルジャングルを作ろう」など中学校・高校の特色を生かした講義や制作ブースが設けられ、中でも、「バルーンアートに挑戦」は多くの親子が参加し楽しむ様子が見られた。



16時からは三重県総合文化センター大ホールに場所を移し、コロナ禍や台風の影響で中止や延期が続いていた皇學館高等学校吹奏楽部による定期演奏会を行った。4年ぶりの通常開催とあって来場者は約1100名を数え、盛況を博した。

「神嘗奉祝祭」初穂曳行事に4年ぶりに参加

初穂曳行事が10月15日に行われ、本学からは学生、教職員合わせて約90名が参加した。



本学では神嘗奉祝祭の主催者である神嘗奉祝委員会および初穂曳の運営主体である神宮奉仕会のご配慮により、平成19年度から初穂曳に参加させていただいている。新型コロナウイルス感染症の流行により令和元年度を最後に参加していなかったが、制限の緩和に伴い4年ぶりに奉曳した。

全学生にとって初めての経験となった今回、最初こそ戸惑っていたものの木遣い歌や合図に引っ張られ、時間が経つにつれて楽しむ姿が見られた。また、綱を上下に揺らし、左右両側の綱を中央に寄せ合う「練り」体験も新鮮だったようだ。約1時間をかけて元気いっぱい心に込めて奉曳した後、五丈殿に稲束を奉納し、御垣内参拝を行った。

学生からは「伊勢の伝統行事である初穂曳に参加でき、貴重な経験になった」「『エンヤー!』と大きな掛け声を出しながら曳くことで一体感を感じ、楽しかった」「来年も参加したい」といった感想が寄せられた。

令和5年度 夏季フィールドワーク

Table with 4 columns: 学科 (Subject), 引率教員 (Instructor), 日程 (Schedule), 目的地・方面 (Destination/Region). Lists fieldwork activities for various departments like Shintô, Literature, History, and Overseas.

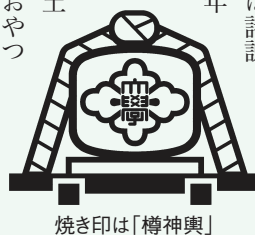
※春季休業期間の2~3月にも実施。



伊勢市民にとって懐かしの味「ばんじゅう」

「ばんじゅう」は諸説あるが120年以上の歴史がある焼き菓子で、伊勢の地では観光客の土産や地元民のおやつとして昔から親しまれてきた。「ばんじゅう」の素朴な味は伊勢を離れた方々にとって伊勢を思い出すきっかけになると考え、ギフトに取り入れた」と話す細川真奈さん(国文1)。さらに焼き印のモチーフは、かつて倉陵祭の目玉企画として各学科で制作され市内を練り歩いていた「樽神輿」だ。中村うたさん(国史2)は「ばんじゅうと樽神輿を組み合わせることで、本学の卒業生や伊勢に住んでいた方に懐かしさを感じていただければ」と話す。担当の池山敦教育開発センター准教授は「学生と企画し、伊勢商工会議所や製造元の伊勢製菓三ツ橋さんなど各方面の協力をいただきながらようやく完成にこぎつけた。皇學館愛、伊勢愛が詰まったオリジナルばんじゅうをぜひご賞味ください」と語った。

皇學館オリジナルばんじゅうがふるさと納税返礼品に CLL活動「Gift of Use プロデュースプロジェクト」



焼き印は「樽神輿」

CLL活動報告

楽しさから広がれ! インクルーシブスポーツ

CLL活動「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」



誰もがスポーツを楽しんだ1日となった

CLL活動「インクルーシブスポーツ推進プロジェクト」のメンバー22名が伊勢市と連携して企画・運営を行った「第2回インクルーシブスポーツフェスタ」が10月15日、三重電子スマイルアリーナ小俣(伊勢市小俣総合体育館)で開催された。インクルーシブスポーツとは年齢や性別、障がいの有無、国籍等に関わらず誰もが一緒に楽しめるスポーツのこと。当日は市内在住の親子連れなど約170名が参加したほか、本学の学生ボランティア50名がサポートに駆け付け、ボッチャやモルック、車いすバスケットなど5種目を楽しんだ。パソコンを使い、視線で操作する「eボッチャ」の体験もあった。



参加者がより楽しめるようゲームのコツを伝えたり励ましの声をかけ盛り上げる学生たち

ダウン症の子と参加した保護者は「学生さんの支援がなかったら本人たちは楽しめなかったと思う」と話し、プロジェクトのリーダーを務めた佐久間美沙さん(教育4)は「皆さんが楽しんでよかったです。インクルーシブスポーツの認知度はまだ低い。楽しんでもらうことが普及への第一歩」と語った。教育学科の駒田聡子教授は「CLLの学生が選んだ5種目が障がい者も健常者も同じように実践できる内容だったのがよかったとの声も多く聞かれた。初めての活動だったがインクルーシブスポーツにふさわしい充実したフェスタとなり、あらためて学生の企画力と結束力を感じた」と振り返った。



「偉人の逸話から得られるパワーは絶大」と語る中村さん

画家の中村麻美さんが 作品を解説講義

津市出身の画家・挿画家である中村麻美さんが10月4日、教育学科の渡邊毅教授のゼミ生を対象に作品の解説講義を行った。中村さんは偉人の逸話、歴史の一場面を題材とした絵画を多く手掛けている。本学附属図書館では中村さんの特別展示会を9月27日から10月5日にかけて開催しており、今回の講義が実現した。

中村さんは本居宣長と賀茂真淵との出会いを描いた「松坂の一夜」や「北海道の名付け親―松浦武四郎」など16作品について、最初は見た目の美しさに引き込まれたが、先生のお話を聞いた後では内側から滲む真心、誠実さを感じ、見方が変わった」と話した。沖久教太さん(教育4)は「絵にはメッセージを瞬時に伝えるパワーがある。今日は伝えることの難しさを考えるきっかけにもなった」と語った。

中村さんは「絵の具を重ねていくといろいろな人々の思いがよがり、絵に宿っていくような感覚がある。そうしたものが観る人の心に伝わっていくといい。美術館や博物館に足を運び、名作を生で観る機会を作って教育者としての素養を磨くことに役立てて」と締めくくった。

「家庭に感謝する日」の行事を実施

教育勅語の「父母ニ孝ニ…」とある趣旨に基づき、勅語渙発の10月30日を「父母の日」と定め、私たちが育ててくれた両親、先祖に感謝の意を表す日としている。



本年10月30日、昭和41年から本校の恒例行事となっている教育勅語の謹書を行い、また家庭への感謝の気持ちを作文にした。次に作品の一部(抜粋)を紹介する。

健康で快適な生活を支えてくれる家族

皇學館中学校1年 出口 琴音

「家庭に感謝する日」という題名を聞いて最初に思い浮かんだのは、私の日々は家族に支えられて健康で快適な生活が送られているということです。

毎日の生活で当たり前を用意されていたり、当たり前を思っていたりすることも家族の誰かが用意や手伝いをしてきていました。例えば毎日食べているご飯です。母親が毎日早起きして朝食とお昼のお弁当を作ってくれます。しかも栄養バランスを考えて色々なメニューを用意してくれます。また、私の好きな食べ物を入れてほしいとリクエストすると

入れてくれます。学校や塾の送り迎えも忙しい仕事の合間に来てくれます。学校の行事も両親揃って見に来てくれて恥ずかしい気持ちもありますが、どこか嬉しい気持ちもあります。私が風邪で寝込んでいた時は看病してくれました。風邪がうつるかもしれないのにそばにいて嬉しかったです。私が困っていたり悩んでいたたりする時に一番助けてくれるのは家族です。今は助けてもらうことの方が多いですが、私が大人になったら家の手伝いをたくさんして、家族を助けられるようになりたいなと思います。

大切に大好きな家族がいる私は幸せ

皇學館高等学校1年 倉島 芭和

私はこの作文を機に家族に対して当たり前だと思っていたことに感謝するべきだと思いました。おいしいご飯を作ってくれて、いつも支えてくれて、遊んでくれて、そばにいてくれて、正しいことを教えてくれて、ずっとずっと愛してくれて、私のために何かをしてくれて、相手のために何かをする大切さを教えてくれて、今の私でいさせてくれて、全部全部ありがとう。どんなに感謝してもし切れないほど幸せです。

私は家族みんながいることを、私と過ごしてくれることを当たり前だ

と思いたくありません。いつかはバラバラになってしまうことも分かっています。けれど、みんながいる幸せを忘れないように、毎日「ありがとう」を絶対に伝えていきたいです。今日も明日も、この日が続いてほしいです。みんなで一緒に成長して、いろいろなことを学んで、喧嘩したり間違っただにそれだったりするかもしれないけれど、いつでも帰ってきていい場所で、待っていてくれる人がいる場所。そんな家庭だと思います。そんな大切に大好きな家族がいる私はとても幸せです。

第18回 皇學館中学校・高等学校英語スピーチコンテストを開催

10月28日、第18回英語スピーチコンテストが開催された。本スピーチコンテストは英語学習に意欲的に取り組んでいる県内の小学生や中学生に英語によるスピーチの機会を提供するとともに、皇學館中学校・高等学校での英語教育、国際教育の一端を知っていただくことを目的に実施している。



小学生の部



中学生の部

小学生の部はBeginner (英語学習2年未満対象)とAdvanced (英語学習2年以上対象)に分かれており、中学生の部と合わせて3部門による構成。この日は一次審査(動画審査)の通過者が白熱したスピーチを発表し、鍛錬の成果を披露した。

Beginner	
優勝	松下 煌 英さん(伊勢市立明野小学校)
準優勝	藤 永 凌 和さん(津市立南が丘小学校)
Advanced	
優勝	藤 井 真 愛さん(津市立南が丘小学校)
準優勝	中 田 瑚 雪さん(松阪市立花岡小学校)
中学生の部	
優勝	藤 井 結 愛さん(セントヨゼ女子学園中学校)
準優勝	浅野イザベラさん(津市立南郊中学校)
第3位	福 浦 美 咲さん(松阪市立嬉野中学校)

車いす利用者の神宮参拝をサポート

敬老の日の9月18日、高校21名、中学校3名の生徒が車いすを利用する高齢者や障がい者の神宮参拝を支援するボランティアを行った。これはNPO法人伊勢志摩バリアフリーツアーセンターが企画した「車いすde伊勢神宮参拝プロジェクト」の一環。生徒たちは玉砂利の敷かれた神域内で車いすを押し、内宮正宮前階段で車いすを持ち上げたりして参加者との交流を楽しんだ。いろいろな人と交わりたいとの気持ちから同プロジェクトに応募したという永井結さん(2年)は「車いすを傾け

たり歩調をあわせたりするのが想像以上に難しかった。何度かバランスを崩しかけたのにもかかわらず、私たちが不慣れなことを承知で笑顔で許してくれた上に、動作のアドバイスまでしてくれた。今回参加したことで車いすでの移動の大変さやサポートの重要性などさまざまなことを学んだ。このプロジェクトで得たたくさんの学びをこれらにつなげていきたい」と話した。



楽しみながら協力・自立の大切さ学ぶ

1年生がともやま公園で宿泊研修

9月21日、22日と1泊2日の日程で、志摩市ともやま公園にて1年生が宿泊研修を行った。



1日目は屋内でのドッジボールや生徒企画のレクリエーションを楽しみ、飯ごう炊飯とカレー作りを実施。おいしくできたカレーライスを堪能した後、締めくくりにキャンプファイヤーを行った。2日目は午前中にシーカヤックを体験。ペアで協力して漕ぎながら海面からの景色を満喫した。研修スタートからあいにくの天候だったが、関わっていただいた皆さんの方々のサポートと、持ち前の元気よさ、明るさで楽しい2日間を過ごせた。

生徒の感想

- さまざまな場面で自立やチームで協力する大切さを学べた。楽しくメリハリがあり、本当に勉強になった。
- クラスメイトの新たな一面を知ることができた。
- ペアとの連携が大事なシーカヤックではコミュニケーション力が養え、何より楽しかった。

次につながる農漁林業体験

2年生が東紀州で宿泊研修

10月6日・7日の両日、2年生が宿泊研修で東紀州を訪れた。



2日間とも好天に恵まれ、東紀州の自然をしっかりと体感することができた。研修の目的は「地場産業研究」であり、農業・漁業・林業に直接触れて学ぶことにあった。生徒たちは事前指導や研究に真剣に取り組み、現地でも仲間と声を掛け合いながら協力して学ぶ姿がみられた。三重県の素晴らしさ、第1次産業の大切さ、世界遺産のある東紀州の雄大さ、仲間との絆の大切さなどたくさんの学びを得た研修となった。

生徒の感想

- 事前指導で教えてくださった「研修には研ぎ合うという意味がある」との言葉通り、しっかり実践できたと思う。
- 今までの遠足と違い、地域の人たちとつながることができ、東紀州という地域を深く知ることができた。第1次産業の抱える問題についてもっと考えてみたい。
- 農業学習で収穫したみかんはとてもおいしかった。

日頃の勉強の成果を発揮

3年生が東京へ修学旅行

11月12日から15日の日程で3年生が東京への修学旅行を実施した。日頃の英語学習の成果を発揮すべく、現地で外国人へのインタ



東京大学の安田講堂前

ビューや「世界に日本の文化を伝えよう」をテーマに英語でのプレゼン発表に取り組んだ生徒たち。靖国神社や国会議事堂、東京ディズニーランドなどを巡り、充実した修学旅行になったようだ。

生徒の感想

- 品川に着いてすぐに英語キャンプに入り、ほぼ1日オールイングリッシュで積極的に活動することができた。靖国神社では国を守って亡くなった246万余柱のご祭神に正式参拝した際に、館友の山口建史宮司を始め、本学卒業生の神職さんから親しくお話を伺い、一緒に写真撮影をしていただけたのは一生の思い出になった。副室長としても、室長と連携して点呼や報告などを行い、「みんなと協力する」という目標は達成できたと思う。全体を通して笑顔溢れる、とても楽しい4日間となった。

イベントカレンダー

各講座の詳細は本学ホームページでご確認ください。
🕒 時間 📍 場所 (● 本学 ● 他) 💰 料金 👤 対象 📅 予約 📞 問合せ先

2月

10日 **よんぶんセミナー(皇學館大学公開講座)**
四日市ゆかりの神社を知る
第2回「鳥出神社・鶴森神社
—四日市の式内社と古代の神祇祭祀—」

講師 佐野真人(研究開発推進センター准教授)
🕒 13:30~15:00(受付は13:00~)
📍 三浜文化会館 会議室D 🆓 無料 🎫 一般 📄 必要
【申込方法】インターネット 四日市市文化会館ホームページ、三浜文化会館ホームページから
📍 四日市市文化会館 059-354-4501
(9:00~19:00、第2月曜を除く月曜休館)

18日 **令和5年度なばりカレッジ皇學館大学ふるさと講座**
天正伊賀の乱と伊賀の中世城館

講師 竹田憲治(本学非常勤講師)
🕒 14:00~(受付は13:30~) 📍 名張市防災センター
(三重県名張市鴻之台1番町2番地)
🆓 無料 🎫 一般 📄 必要(先着順、定員30名)
【申込方法】1月15日~31日に電話の方は①氏名
②住所 ③連絡先電話番号を、Eメール・FAXの方は
件名に「ふるさと講座」、本文欄に①②③を明記の上、
下記問い合わせ先までお申し込みください。
📍 名張市教育委員会文化生涯学習室
0595-63-7892 FAX 0595-63-9848
Eメール syougai@city.nabari.mie.jp

委託販売のお知らせ

キクイチ分室(伊勢菊一)様にて、皇學館大学出版部の一部書籍を委託販売していただくことになりました。ぜひ、お立ち寄りください。

【委託販売先】
キクイチ分室(伊勢菊一)様
三重県伊勢市本町6-4
シャレオ・サエキ 2階 キクイチ分室 [Instagram](#)



新刊のご案内

講演叢書第197輯	中山 真 著 ストレスと向き合う心理学
講演叢書第198輯	大杉 成喜 著 明日を切り拓く特別支援教育—テクノロジーによる障がい支援、これまでとこれから—
講演叢書第199輯	加藤 純一 著 解釈する身体・解釈しない身体—武道論的視座からのアプローチ—
講演叢書第200輯	駒田 聡子 著 食生活で心と体の健康を保つ力を育む三重の食
講演叢書第201輯	高橋 摩衣子 著 小泉文夫の音楽教育論から読み解く教材としてのわらべうたの役割
講演叢書第202輯	中條 敦仁 著 これまでの国語、これからの国語—教科書の物語文の語句・表現を手がかりに—
講演叢書第203輯	渡邊 賢二 著 教育現場の現状と支援—笑顔あふれる学校・学級づくりを目指して—
講演叢書第204輯	渡邊 毅 著 明日の学校を創る道徳教育

ご注文の際は、出版部ホームページからお申込みください。
右記のコードからアクセスできます▶



3名が優良生徒表彰



左から室田さん、大津さん、山下さん

10月21日アスト津において第59回三重県私学大会が開催され、皇學館高等学校3年の大津拓己さん(前校友会総務委員長)と室田真里さん(前校友会総務副委員長)、皇學館中学校3年の山下輝之さん(校友会総務委員長)の3名が優良生徒として表彰を受けた。大津さんは「校友会活動をこのような形で評価してもらえてとても嬉しい」、室田さんは「みんなの支えがあってこそ受賞」、山下さんは「校友会委員全員が受賞したのだと思う」とコメントした。

歓声と賑わいが戻った学園祭

第62回 倉陵祭 10/28(土)~29(日)

テーマ ● 息吹

次世代につなげる「倉陵祭」を創りたい

実行委員長 中村 悠真(国文4年)



倉陵祭はコロナ禍による中止、オンライン開催、学内開催を経て、今年ついに一般開放することができました。大事にしたのは「俯瞰の視点」です。路線バスの車体に広告を出し周知したり、学内のイルミネーションやライトの設置なども初めて行いました。カラオケ大会を初めて催したのも、来てくださる方々に「元気を届けたい」との思いからです。運営にあたっては来年以降の倉陵祭につながるよう、できる限り上級生と下級生をペアにしてスムーズに引継ぎできるようにしました。

法律が変わり、模擬店に食品衛生責任者を必ず置かなければいけないなど前例のない場面も多々ありました。大変でしたが、開催後にたくさんの方から「すごくよかったよ!」「大成功だな」と声をかけていただき、本当にやってよかったと感じています。後輩たちには「失敗してもいい」くらいの心積もりで肩の力を抜き、自分たちの「倉陵祭」を創り上げてほしいと思います。



書道部の展示



祭典で幕開けとなる倉陵祭



よさこい部「雅」の華麗な演舞



模擬店



子ども広場班は「ジャックとアリスの不思議な物語」を熱演

皇學館高等学校創立60周年・皇學館中学校創立45周年記念

第61回 皇高祭 9/14(木)~15(金)

テーマ ● Let's create!
~皇學館を次の時代へ~

祭典に高校生祭員が初参加

校友会総務委員長 山中 美璃依(2年10組)

本年度の皇高祭は皇學館高等学校創立60周年を記念して例年よりも盛大に行われました。1日目はシンフォニアテクノロジー響ホール伊勢で、祭典、吹奏楽部のコンサート、アトラクション、2日目はクラブ・クラス展示、体育館でのイベントが実施されました。

祭典では、初めて高校生が祭員として参加し、アトラクションではスペシャルユニット「Dream」の皆さんが奏でる音色に会場全体が一体となって圧倒されました。

2日目のクラス展示では、1年生は北海道、2年生は三重県をテーマに、各クラス展示を行いました。昨年度とは異なり、模擬店を行うクラスやキッチンカーの出店、体育館で自由観覧の有志発表やカラオケ大会が行われ、とても盛り上がりました。

皇高祭終了後、生徒の皆さんからたくさんの「楽しかった」という言葉を耳にし、開催までの多くの苦労が報われたような気がしました。来年度の皇高祭がさらによりよいものとなるよう、校友会本部役員一同頑張っていきたいです。



高校生祭員が初めて参加



緊張しながらの楽器体験



吹奏楽部とダンス部による合同パフォーマンス

第44回 皇中祭 9/16(土)~17(日)

テーマ ● Toward a bright future
~創り上げよう個性で~

合唱コンクールは3年A組が金賞、BRBは2年A組が優勝

1日目は皇學館大学記念講堂にて祭典、合唱コンクール、ブックレビューバトル(BRB)、日本文化部の演奏会を行いました。2日目は皇學館中学校でクラス・クラブ展示発表、書道・美術作品展示、英語部・未来理工部の発表会などを行いました。今年度は例年より1カ月早い開催となり準備期間が短い中、各クラス、クラブは一生懸命準備を進め、どれも素晴らしい発表となりました。

合唱コンクールで指揮を執った伊藤直子さん(3年A組)は「記念すべき年に金賞を取れてうれしい。最初はあまり揃わなかった歌声にプレッシャーと焦りを感じましたが、一人ひとりの努力と団結により2年連続で金賞を取らせていただくことができました」と喜びを語りました。

BRBで優勝した2年A組の黒田若奈さんは「BRBは去年よりもよくなっていったと思います。もっと改善できることもあると思ったので頑張りたいです。準備もみんなで協力したり、居残りしたり楽しかったです」、同じく2年A組の三島香里奈さんは「みんなが一つになって皇中祭に向けて頑張ってくれたと思います。今年の皇中祭は去年よりも楽しかったです」と話しました。



BRBは2年A組が優勝



合唱コンクールは3年A組が金賞

Active Student

高い志とチャレンジ精神でもって学内のみならず、さまざまなフィールドで活躍している皇學館生たち。本コーナーでは彼らの熱い思いとともに、その活動ぶりをご紹介します。

女子軟式野球部3名が ジャパンカップ選抜メンバーに! 第29回 女子軟式野球ジャパンカップ



幼稚園の先生や家族の影響で幼い頃から野球を始めた3人(左から森島さん、鈴木さん、原さん)

10月1日に東京都江戸川区球場で第29回女子軟式野球ジャパンカップ王座決定戦が行われ、本学女子軟式野球部の鈴木美結さん(現日4)が内野手、原奈津美さん(教育2)が投手、森島希菜里さん(教育2)が捕手として出場した。

「日本女子体育大学をはじめ強豪チームの団結力やコミュニケーション力の高さを目の当たりにして勉強になった」と話すのは鈴木さんだ。積極的に話し掛けてくれ、鈴木さんがレフトフライを放った際も「ナイスバッティング!」とみんなで盛り上げてくれたという。原さんは「球種を増やし、コントロールでは誰にも負けない投手になるという目標を持つことができた」、森島さんは「選ばれて光栄。ハイレベルな他校の選手たちに出会い、刺激になった」と語り、それぞれに収穫の多い経験になったようだ。



原さん

そんな3人の目下の悩みは部員数が少ないこと。鈴木さんは「部員同士とても仲良く、楽しくも真剣に野球に向き合えるチーム。初心者のメンバーもいるので気軽に入部してほしい」と語る。森島さんは「人脈が広がった。先輩からは大学生活のアドバイスをもらえ、今回のように選ばれば全国の野球をやっている人たちと友だちになれる」、保育士をめざす原さんは「練習を通して集中力が身に付いた。部活と学業とがお互いにいい影響を与えている」と話した。



森島さん

駅伝競走部12名が完走 35位と力の差を感じるも闘争心に火 箱根駅伝 第100回大会予選会



10月14日、陸上自衛隊立川駐屯地で行われた箱根駅伝第100回大会予選会に本学駅伝競走部が出場。12名が21.0975キロのハーフマラソンを走り抜き、上位10名の合計タイム11時間10分00秒で57チーム中、35位となった。

國學院大學時代に箱根駅伝を4度経験し、駅伝ファンなら知らない人はいない「寺田交差点」の伝説で知られる寺田夏生監督は「10年前、私が選手として並んだ場所に皇學館の選手たちが並び、それを見守る立場となっていることに不思議な気持ちがある」と感慨深げに語る。そして、「出場権に対する関東勢の

執念、予選会とは思えない緊張感、観客、応援団の数に改めて箱根駅伝の大きさを実感した。選手にはただ参加しただけで終わらせることなく、予選会を走って感じたことをこれからの競技、チームに還元して欲しい」と説いた。

選手たちは関東勢のレベルの高さを痛感するも、ひるむことなく、むしろ闘争心に火がついたようだ。それぞれの課題克服に向け今日も練習に励む選手たち。今回の経験を糧にどのような復活劇を見せてくれるのか、期待が集まる。

選手のコメント

●松野 颯斗(現日4)

改めて関東との差を体感して練習の必要性を感じた。長距離への適性はあると思う。年明けからハーフやマラソンを走るのに対応する練習を積み、10キロ以降も走れる体力をつける。

●岩島 昇汰(国史3)

今までにない大きな舞台で走れることにワクワクした。圧倒的なレベルの違い、1秒の重みを感じた。結果につなげられるよう、練習を積んでいきたい。

●畠山 大輔(国史3)

転倒しないためのポジション取りや集団の利用の仕方など勉強になった。長丁場に対応する筋力を付け、ハーフは63分台、ロードでは関東勢と戦えるようにしたい。



●藤川 創(コミ3)

本来立つことができない場所に立ててうれしかった。強豪校と走ったことで関東校の本気度、自身の力不足を感じた。後半に大きくペースダウンしてしまった課題を克服していきたい。

●中村 颯太(教育3)

関東勢の層の厚さと地方勢との力の差を感じた。レースを楽しんで最後まであきらめなかった点はよかったが、後半の失速が目立った。駅伝メンバーに入ることが目標。

●浦瀬 晃太郎(現日3)

関東の大学と戦うには力不足。後半のスタミナが課題。練習量を増やし、継続して取り組む。区間順位で関東勢に割り込みたい。

●芝辻 晴裕(現日3)

改めて実力の差を感じたが、絶対勝てない相手ではないと思った。アップの仕方が勉強になった。関東勢と戦える実力をつけて、全日本インカレ入賞をめざしたい。

●大井 飛翔(現日2)

闘争心が芽生え、多くの人が応援してくれることに改めて感謝しなければいけないと思った。チーム

内でトップ争いをするくらい強くなり、関東勢に食らいつく。

●神部 大希(現日2)

応援してくださる方々への感謝が大事だと学んだ。今後の目標は5000mでの自己ベスト更新と、駅伝に出場して活躍すること。

●森下 楓(現日2)

関東勢と一緒に走るだけで満足するのではなく、競い合えるくらい強くなりたい。関東勢と自分との力の差を実感できてよかった。目標は区間上位で走れるくらいの力をつける。

●前野 皓士(コミ1)

自身の無力さ、後半の弱さ、練習不足を痛感したが伸びしろはあると思った。フォームを改善し、チームトップに食い込める走力をつけ、長距離に対応できる強い選手になる。

●田中 瑞輝(教育1)

強豪校の選手は大会に臨む心構えから違った。大事な試合で力を出し切ることの難しさを改めて感じた。積極性を身に付け、先輩方に追いつけるよう練習を頑張りたい。

皇學館高等学校生が実行委員などで活躍

第43回 近畿高等学校総合文化祭三重大会

11月10日～19日、第43回近畿高等学校総合文化祭三重大会が開催され、本校生徒が実行委員長になるなどして活躍した。この大会は「近畿は一つ」を合言葉に、芸術文化活動に取り組む2府8県の高校生が交流と研鑽を深める総合的な発表の場。今年は三重県の文化系クラブ18部門の代表者83名が実行委員となり準備を進めてきた。



司会の松本さん(左)、山崎さん(右)



谷口さん(中)、大田さん(右)

本校からは大田莉穂さん(2年)と谷口心渚さん(2年)が広報グループのメンバーとして大会PRのためのインスタグラムを作成。写真部門では田中明依紗さん(2年)が部門実行委員長を務め、三重県の紹介を盛り込んだ印象的な挨拶を行った。表彰式・講習会の司会



田中さん



進行係は山崎智可さん(2年)と松本茉莉恵さん(2年)が務め、はっきりとした言葉遣いでスムーズに会を進行した。演劇部門では向井音々さん(2年)が部門実行委員長を務め、宮田碧さん(2年)が三重高校、伊勢学園高校の演劇部員と共に劇の上演を行った。吹奏楽部門では吹奏楽部が県下11校の吹奏楽部と合同で「インスパイア」と「風になりたい」を演奏。囲碁部門では小島凜子さん(2年)と田邊柚人さん(1年)が行事運営生徒として参加した。各部門で多くの生徒が積極的に雰囲気盛り上げ、大会を成功に導く一助となった。

上村芽生^(3年)さん、福田湮央^(3年)さんが 雑誌「CAPA」月例フォトコンで2席 「CAPA」月例フォトコンテスト

カメラ・写真雑誌「CAPA」月例フォトコンテストで入賞常連校となっている皇學館高等学校写真部。2023年10月号では上野芽生さん(3年)の作品「思索中」が、12月号では福田湮央さん(3年)の作品「夕暮れの私」が2席を受賞した。前月号でも入賞した福田さんは、2カ月連続受賞の快挙だ。

写真家の公文健太郎さんはそれぞれ「モノクロームの柔らかなトーンで路面や植物の質感を描き、構造物の線をダイナミックに使い動きを出した。写真としての完成度が高い」、「独特の存在感。クマのぬいぐるみがまるで自分の限



上村さんの作品「思索中」



福田さんの作品「夕暮れの私」

られた理解者であることを表しているよう」と講評した。